

新健康協会では、新しい健康法を伝える「健康新聞」を毎月発行し、人間の持つ治癒力や適応力をお伝えしています。肉体的、精神的なことでお悩みの方もぜひ御一読ください。

健康新聞

発行所
発行人

新健康協会

〒813-0001

福岡市東区唐原6-7-1

TEL:092-661-1531

https://shinkenko.jp



次の御論文は、明主様(当協会の教祖)が、昭和二十四年に発表されたものであります。世界平和と心身共に健全な人間作りを目指す活動に御理解を頂ければ幸甚です。

悪銭身に着かず

昔から「悪銭身につかず」という言葉があるが、全くその通りである。それについて私は霊的に解釈してみよう。

投機(とうき)といえ、株式相場を始め商品の上がり下がり、競馬(けいば)の賭(か)等々種々あるが、その中の代表的なものとして株式相場について解釈してみよう。私も無信仰者時代には株相場に手を出し、数年間売ったり買ったりしたが遂に大失敗をした。それが信仰生活に入る一つの動機となった事も勿論(もちろん)であると共に、霊的方面を知るに及んで、決してなすべきものではないという事を知ったのであるから、この一文を相場に關心を持つ人に対し、ぜひ読まれん事を望むのである。

相場なるものは、まず百人損をして一人儲(も)かるといふ事をよくいわれるが、その通りである。一時は一攫(いつかく)千金(せんぎん)の儲(も)けによつて成金(なりきん)となつ

ても、それが長く続く者はまず一人もあるまい。しかも大儲(も)けをする者程大損(だいそん)をするものであつて、儲(も)ければ儲(も)かる程その人の前途(だんがい)は断崖(だんがい)が口を開けて待つているようなものである。まづ霊的にみればこうである。損(こ)を蒙(こうむ)つた大多数者は、「口惜(く)しい、残念だ、どうかして損(こ)を取り返したい」と思うのは人情である。従つて、その怨(うら)みの想念(せんねん)がどこへ行くかという、自分の金を吸いとつた人間に行こうとするが、それはどこの誰(た)だか分からないので、自然取引所(しぜんとりひしよ)を目がけて集中するばかりか、それが紙幣(しへい)に集まるといふ事になるのである。この際(さい)霊眼(れいがん)によつて見れば、取引所(とりひしよ)にある紙幣(しへい)の面には怨(うら)みの人間の顔(かほ)が何千何万となく印画(いんが)されており、その一つ一つの顔(かほ)とその本人(ほんにん)とは霊線(れいせん)でつながつてゐるから、取り返(と)そうとする想念(せんねん)がそれを常に引(ひ)つ張(は)つてゐるといふわけで、その紙幣(しへい)は所有主(しよいうしゅ)の金庫(きんぐ)には決して長く安定(あんてい)してはいない。いつかは引(ひ)つ張(は)られるから大損(だいそん)をし一文(いちもん)なしになつてしまふのである。

右(みぎ)は投機(とうき)ばかりではない、金銭(きんせん)上のあらゆる事に共通(きょうつう)するのである。いわば不正(せいじょう)によつて得た富(とみ)や、与(よ)るべき金銭(きんせん)を与(よ)らなかつたり、故意(こ)に減(へ)らしたり、借金(か)を返(かへ)さなかつたりする場合(ばい)、先方(せんぱう)は怨(うら)むから、やはり前述(ぜんじゆ)のごとく吐(は)き出(だ)さざるを得(え)ない事(こと)になるのである。

今(いま)一つ知らなければならぬ事は、昔(むかし)から宗

教上(きやうじやう)の建物(たけもの)が火災(かさい)のためよく灰燼(かいじん)に帰(かへ)る事がある。浄財(じやうさい)を集めて建築(けんちく)された清(きよ)き社寺(しゃじ)や殿堂(だんどう)、伽藍(がらん)等(ら)が焼失(やうしつ)するという事は不可解(ふかげ)に思(おも)われるが、実は理由(りゆう)がある。というのは、その基(もと)金を集める場合(ばい)無理(むり)をする。例えば、信徒(まこと)または末寺(まつじ)に対し、一定(いてい)の額(がく)をきめ強要(きやうよう)する事があるが、これは自然(しぜん)ではない。信仰(しやうぎやう)的(てき)献金(けんぎん)としては、本人(ほんにん)の自由意志(じゆういし)によつて任意(てんい)の額(がく)を決(き)めるのが本当(ほんたう)である。気持ちよく献納(けんのう)する事こそ真(まこと)の浄財(じやうさい)になるのである。今(いま)一つは、その建造物(けんぞうぶつ)を利用(りよう)する上(う)においても神仏(かみぶつ)の御心(ごこころ)に叶(かな)うようにすべきで、間違(まちが)つた事(こと)をしたり汚(け)したりするような事(こと)があつてはならぬにかかわらず、さうでない場合(ばい)火(ひ)の洗礼(せんれい)を受ける事(こと)になるのである。

ただし、相場(ちやうば)をとる目的(てき)でなく金利(きんり)即(すなわ)ち配当(はいたう)をとる目的(てき)で買(か)うのは結構(けつこう)であつて、これは何等(かうら)怨(うら)みを買(か)うような事(こと)にはならないのみならず、むしろ産業(さんぎん)発展(はつたんと)のため有用(ゆうよう)な事(こと)であつて、大(だい)いに奨励(しょうれい)すべきものである。

浄霊体験記

2ページ
3ページ

- 偶然出会った浄霊で 無い命を頂きました…
- お腹の痛みで 体重33キロに…
- アトピー良くなり 孫に笑顔が戻る…
- 元気な体になって 仕事にも奇跡を…

浄霊によって真の健康体となり、運命が向上し、幸せになられた方々の体験でございます。

体調不良・耳垂れ

偶然出会った浄霊で
無い命を頂きました…



大分支部
植木喜代子 (92)

私は若い頃から手足が冷えて体調が優れず、元気になりたい一心で宗教に頼ったり、ホルモン剤や漢方薬、西洋薬を服用したりし、注射や鍼灸もしていました。

「この薬はいつ効くのだろうか…どこか良くなることはないだろうか…」と探していた昭和五十二年、私は新健康協会を探してはおらず、別の施設に向かっていました。しかし途中で道に迷ってしまい、気が付くと新健康協会に辿り着いていました。そこで私の状態をお話すると、「浄霊を受けてみませんか…」と声を掛けて下さった

ので、私は浄霊を受けることにしました。すると、今までに感じたことのない状態で、私は「浄霊しかない」という気持ちが強くなり、すぐに入会をお願いし、昭和五十二年六月十二日、46歳の時に入会しました。

浄霊によって体調はますます良くなり、体調が優れなかったのが嘘のように元気になっていきました。その後も、カゼでヌラが出たり、歯痛でたびたび顔が腫れたりしていましたが、その都度浄霊を受けて元気になりました。

耳だけでなく頭も良くなる

私は家業の魚屋にも励んでいましたが、定年を過ぎた頃からは、日々ゆっくりにした時間を過ごすようになりました。

平成二十年三月のことです。カゼのような状態から左頭、こめかみ、左頬、左耳の周り、左肩と痛み、十日後より耳垂れが始めました。五月より左外耳周辺が赤く腫れ、口を開けるのが困難になりました。

知人や親戚の者も心配して「病院に行ってみたら…」と言ってくれましたが、浄霊を知る前、散々病院で治療しても良くならなかった上に、その時に治療した左延髄から左外耳周辺に何かへばり付いたような不快感が常にありましたので、どうしても病院に行く気にはなりませんでした。

家族、親戚、友人も、私の意志を尊重してくれて、心配しながらも良い協力者となり、たくさん具材を入れてスープを作ってくれたり、車で支部まで送り迎えをしてくれたり、心のこもった励ましの手紙をくれたり、本当に有難いことでした。

六月、パンパンに腫れていた耳がフ

ワワワになり、黄色い膿の耳垂れが、くすんだうぐいす色の膿に変わり、流れ出しました。

六月の終わり頃、左目周辺と左顔面が熱をもって固く腫れていた部分に、ポタポタと排膿し始めました。少し頭がふらついて気分が悪かったのですが、おかげ様で痛みは楽になりました。その後、少しずつ口が開けられるようになりましたので、食事も固形物を美味しく頂け、夜も熟睡出来る時間が徐々に長くなりましたので、体力もゆっくり回復しました。

排膿が落ち着いた九月より、首が回り難くめまいを感じるようになりましたが、少しずつ症状も落ち着いて参りました。濃い膿は、水膿に変わり、タシやヌラをたくさん排泄しました。

平成二十一年四月、私は今までと違う変化に気づきました。以前は頭を叩いた時、空っぽのような音を感じ、髪の毛をすいても自分の頭でないように感じていました。それが、頭に自身が詰まったような音がしますし、クシが地肌に当たった時、自分の頭だと思えるようになったのです。

つらい時には「いつまでかかるのだろうか…」と思ったこともあり、「元気になりたい…そして周囲の人を喜ばせて恩返しをしたい!」と思って過ごした日々でしたが、願いを叶えて頂きました。

平成二十二年五月には元気になった私のことを喜んでくねまして、弟が私達夫婦を北海道旅行に連れて行ってくられて、楽しい時間を過ごすことが出来ました。

明主様に御縁を頂いたおかげで、無い命を頂いたと感謝の日々を過しています。本当に有難うございます。

(大分県大分市)

お腹の異変

お腹の痛みで
体重33キロに…



ネパール・カトマンズ支部
サビトリ・タパ・マガール (59)

私は一九八二年、十八歳の頃、お腹に異変を感じ、いくつかの治療をしたのですが、治すことが出来ませんでした。いろいろなお医者さんに診てもらい、薬もたくさん服用しましたが、食事もお腹の痛みも激しかったので、家族も皆心配していました。

そのような時、新健康協会の会員さんから、明主様の浄霊のことを聞く機会に巡りあいました。「神様の光で健康になれる…」と聞いて、びっくりしました。信じる事が出来ませんでした。信じる事が出来ませんでした。信じる事が出来ませんでした。信じる事が出来ませんでした。

支部では多くの方が浄霊を受け、元気になっていく様子を見ました。そこで私も浄霊で元気になりたいという気持ちになり、その日から浄霊を受けるようになりました。すると、その二日

後の夜、とてもお腹がすいてきたので、二杯のおかゆを食べ、また二時間後にお腹がすいたので、今度は牛乳を飲み、ビスケットも食べました。その後はごはんも食べることが出来、今まで食事が喉を通らなかつた様子を見ていた家族も、その姿にびっくりしていました。私は、明主様の御光のおかげに違いないと思いました。

翌日、たくさん下痢をしましたが、それによってお腹がすっきりし、夜は気持ちよく眠ることが出来ました。徐々に治る希望が湧き、食欲も回復していきました。この食欲のおかげで、ズボンも入らないくらいに太り、私自身びっくりしてしまいました。その後も毎日続けて浄霊を受け、六カ月程で病気も完全に治りました。私は会員になり、現在では支部で多くの人のお世話をしていきます。

世界中の人々が明主様の浄霊によって、歓喜に満ちた幸福で平和な生活が出来るよう、これからも浄霊のことをお伝えしていきたいと思えます。

明主様、誠に有難うございました。
(ネパール・カトマンズ)

浄霊

浄霊は、大自然のエネルギーであり、病気やあらゆる問題で苦しんでいる人、悩んでいる人を救う方法です。

浄霊によって魂は清浄化され、肉体が健康になっていきます。

まずは試されてみてはいかがでしょうか。

アトピー性皮膚炎

アトピー良くなり
孫に笑顔が戻る：

台湾・台北支部
鄒菊妹(79)



私の孫娘は、小学校二年生頃から左肩にカサブタのような物ができ、それがだんだん広がり、痒くなり、体の他の部分の皮膚にも異常が見え始めました。

病院で検査すると「アトピー性皮膚炎」と診断されました。塗り薬や飲み薬を処方され、ダニ対策のため、家中の物を防虫効果のある物にするようにと言われました。布団、枕、シーツ等全ての物を取り替えるために多額の費用と労力が要求されました。しかし一番心が痛んだことは、飲み薬や塗り薬によって、一カ月余りで孫娘の体が倍以上に腫れたことでした。十歳にも満たないのに、目も当てられないような姿になり、本当に心配でした。いくつもの病院に行き、手当たり次第治療を続けましたが、症状はひどくなる一方でした。

二〇一三年七月、娘の同級生から浄霊を紹介され、薬をもつかむ思いで出張所へ行きました。初めは薬を使わず、ただ手をかざすだけだったので全く信じられませんでした。それでも体の状態の原因や、薬が体に残って皮膚が良くなるらない、という道理は確かだと思えました。せっかくな浄霊を試しに来たのだからしばらく続けてみよう、夏休みに毎日孫娘を出張所に連れて行き、浄霊を何度も受けました。

すると、徐々に痒みが治まっていく様子に気付いたので。一日中体を掻きむしることはなくなり、夜もぐっすり眠れるようになりました。おかげ様で、一カ月ほどで体中のカサブタが小さくなり、体のむくみも減っていき、目に見えて変化がありました。

そして、何より嬉しかったことは、薬の塗布の必要がなくなったことでした。薬の副作用や、体の痒みの心配もなくなり、心から元気に過ごせることが有難かったです。

また、孫娘と共に、私も毎日浄霊を受けたところ、困っていた目の乾燥や逆流性食道炎、両足のひざの痛みも徐々に快復しました。そして二〇一四年三月二十五日に入会してからは、自宅で孫娘や家族に浄霊をしたり、自分の体験を友達に話したりしています。浄化の時は、出張所の皆さんが励ましてくれました。こんなに心が楽になったことは今までありませんでした。孫娘の皮膚もきれいになり笑顔が出るようになりました。またそれまで怒りっぽい性格だったのですが、その後は落ち着き、学校の成績も目に見えるほどに良くなりました。

私たち家族の生活も、浄霊を受けるようになってから大きく変わり、日々感謝をしながら過ごしています。私明主様に心から感謝しています。

と孫娘の体験を通して、たくさんの方が浄霊に関心を持って頂き、健康で幸せになれることを心から願っています。

(中華民国台湾省・台北市)

胃潰瘍・眠れない日々

元気な体になって
仕事にも奇跡を：

篠栗支部
城戸辰也(71)



私が協会に御縁を頂きましたのは、平成十三年のことです。当時、福岡県福岡市川端の老舗フランス料理店で、料理長をしていました。少人数の従業員でたくさんのお客様に来て頂いていましたので、毎日仕事はハードでした。体が疲れて、夜眠れなくなりました。体が疲れて、翌日の仕事の為に「睡眠薬」を服用して無理に眠っていました。

その頃は胃潰瘍の状態でもあり、辛い日々を過ごしていたところ、新健康協会の会員であった母が(当時、看護師長をしていました)何度も浄霊を勧めてきましたので、私も浄霊を受けようになりました。すると、眠れな

い状態が変化し、夜は少しづつ眠れるようになりました。その後も浄霊を続けました。胃の方も時々痛んでいたのですが、なかなか職場を休むことが出来ず、そのままになっていました。そんな時、激痛に襲われました。その状態を見た職場の人が救急車を呼び、私は急遽、病院に搬送されました。そこで検査をした結果、「胃が破れる一歩手前でした」と言われました。おかげ様で手術をする必要もなく、短期間の入院で済みました。これも日頃浄霊を受けていたおかげだと思ひ、明主様に感謝御礼申し上げます。

私は入院を機に仕事を辞め、体をしっかりと作るために「毎日浄霊を受けよう！」と決意し、毎日支部に通いました。その頃は、延髄や肩が固く、後頭部から首筋にかけて睡眠薬を服用した時の「ズーン」とするような独特の感じがありました。浄霊を受ける内に首や肩が柔らかくなり、よく睡眠が取れるようにもなり、胃の方もとても楽になっていきました。そして二年後の平成十五年一月十三日に入会しました。入会後は体も楽になり、再度仕事をしよう！という気持ちになりました。

私はリーズナブルにフランス料理を楽しんで頂きたい、気楽に来て頂くレストランにしたい、との思いで、自宅でお店をすることにしました。体の辛さがきっかけで協会を知り、浄霊を受けるようになりましたが、仕事の面でも大きな奇跡を頂いています。

それは、一度も私の方から店の宣伝を依頼したことはないのですが、「お客様の要望で取材をしたいです」とテレビや雑誌の方が来られるのです。おかげ様で店の紹介をして頂けますので、多くの方に来て頂いたり、中には遠方からも予約を頂いたり、大変有

難いことばかりです。また、私一人でお店をしていますので、体が動かない時は店を開けることが出来ないのですが、体が辛い時も浄霊を受けることで元気になる、お客様には迷惑をかけずに済んでいます。私も何か出来る恩返しをしたいと思ひ、協会でお料理の面に役に立てればと心掛けております。私の体、そして人生までも良好にして頂き、いつも御守護の中にあることを実感しています。私の体験談が、読まれた人の幸運へのきっかけとなりますよう、願っております。

明主様、誠に有難うございます。(福岡県糟屋郡)

浄化作用

人間には体内の毒素(=汚物)を排除して健康を促進しようとする働きがあります。これを称して自然良能力と言います。

例えばカゼの場合、体内にあってはならない毒素を溶かすために熱が出ます。溶けた毒素が汗やタンとなって排せつされるので体の中が掃除され、清浄化されます。

その毒素排除の過程を「浄化作用」と言います。ですから浄化作用は、熱や痛みを伴うので苦しみがありますが、体を健康にする大切な清掃作用でもあるのです。

自然農法

自然農法体験談



佐賀支部
北村広紀 (65)

一九八六年、私は新健康協会佐賀支部で自然農法を教えて頂いたことをきっかけに、自然米作りを始めました。

最初は一反(300坪)から初め、翌年は五反(1500坪)、三年目には一町六反(4800坪)すべての田んぼを自然農法にしました。この間、大変だったのは除草でした。最初の頃は除草が追いつかず、自然農法を始めて二年目の頃は草だらけでした。どうしたら良いかと悩んでいた時、すでに自然農法を始められ、さらに除草を克服されていた柴尾善博さんに習うことができ、今でもその技術、方法、時期に沿って除草を行っています。

私は自然農法で育てて、お米もおいしいお米を作りたいと思い、品種選定を行い、私の土地に適していた「コシヒカリ」を選びました。ある時、苗作りを失敗したことがあり、半分以上の苗が枯れてしまいました。そこから再度苗作りを始めたので、七月に田植えを行うこととなったのです。しかし、それが功を奏したのです。なんと普通に植えていた時よりおいしくなっていたのです。これはいろいろと調べて分かったことですが、稲が親であれば、米は子です。夏の暑い時期に親が頑張っていると、どうしても子の方まで行き届かないところがあります。しかし時期が冬に

自然農法とは自然を尊び、愛情をかけて育てることで、自然力を生かす農法です。

近づくことで寒くなり、子である米の方まで栄養が行き届き、糖分が増え、よりおいしくなるということでした。そのため現在でも十月十日以降に収穫出来るように考えて田植えを行っています。

また、私はコシヒカリ一本で米作りを行っています。それは土地、気候、水、遺伝子が年々コシヒカリに適した状態になっていき、おいしさが増していくからです。そのため種も取って次の田植えに繋げていきます。

自然農法を始めて三十数年間、塩害や台風に遭い、二回ほど稲が枯れたこともありましたが。ある時は、苗に「ウンカ」という虫がびっしりついたことがあります。自然農法の基本は日、水、土ですので、これ以外のものは使用しないでどう対処したらいいだろうか：と考え、その時は水を使いました。水を増やすことで虫が苗の上の方に登り、登った虫を竹の棒ではらい水に落とすし込み、そのまま流しました。また、風を受けることもよくあります。田んぼの水が風で押し上げられ、均一にしていた土も一方では水が増え、一方では土が見えている状態にまで変わってしまいました。ですので、土の均平は毎年必ず行っています。何か問題がある時は、どうしたらよいかを前向きに考え、知恵を頂き、自然農法を実行しています。

私のお米は佐賀県から認証を頂き、国の検査も受けています。消費者の皆さんに自然でおいしいお米を届けるために、きちんとした検査を行い、どこに出しても恥ずかしくないお米を届けたいと考えています。そして、自然農法の必要性を多くの方に伝えていきたいと思っています。

美の世界

美によって人間の情操を高め、生活を豊かにし、人生を楽しく意義あるものにすることができます。

歌川広重作

『名所江戸百景』之内

『月の岬』

座敷の奥、縁側の先にたぐさんの船が浮かぶ海を望み、軒下には満ちた明るい月とそれに照らされて列をなす雁の群れが見えます。舞台は妓楼の二階のようです。がらんとした室内に目を凝らすと、畳の上に扇子や猪口が無造作に置かれ、手前の廊下には松の葉に紛れて箸が転がっていたり、大きな徳利があつたりしますが、座敷右奥には手のつけられていない刺身皿の載った盆、人影と三味線の棹などが細やかに描き出されており、場面は大宴会のあとの、さらなる愉しみの前というところでしょうか。左手の障子には簪を差した女性が控えていることがシルエツトで分かります。本作は歌川広重「名所江戸百景」の一つ、『月の岬』です。

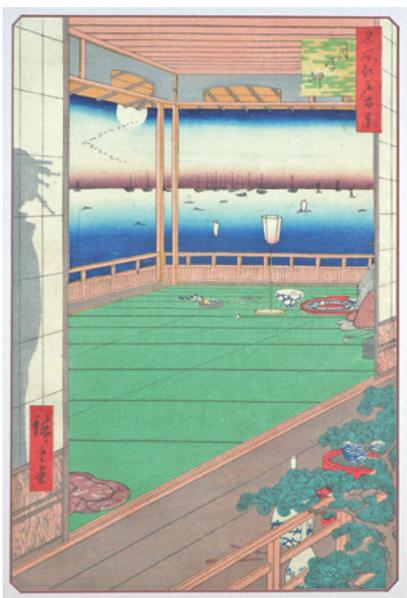
「月の岬」というのは、現在の東京都港区三田にある聖坂上の台地あたりの、月見に適したところとして知られた場所を指します。広重は『絵本江戸土産』の中でも「月の岬」を描いており、「この所北は山、東南は海面にて、万里の波濤眸をさへぎる。実にや中秋の月この所の眺めを第一とす。月の岬の名も空しからず」と言葉を添えています。本作も中秋の十五夜を想定して描いたものかもしれません。

しかしながら、月が主役となりそうなこのシチュエーションで、画面の大半を占めるのは、人影が左右両端に仄めかされているだけの、ただただ座敷の青い畳が広がる空間です。一見すると登

場人物が不在で、舞台背景しかないような印象を受けてしまいますが、残された器や道具、その置かれ方を通じて、それまでここで起こっていたこと、そしてこれから起こるだろうことの気配を感じ取ることが出来ます。むしろ不在であるからこそ宴の楽しさ、華やかさ、ほんの少し入り混じる猥雑さといった雰囲気、見る人の想像力によって、感触として直接立ち上がってくるのではないのでしょうか。

パンデミック下で人と集まって酒を酌み交わすことも、一緒に歌い、歓声をあげることも慎まなくてはならなかった間、私たちはそうした瞬間のことを恋しく追想し、顔を合わせて交流することの尊さを噛み締めるようになりました。できない時により強く思い起こす宴のような、しみじみとした情趣まで感じさせる、粋な画面だと思います。

解説 松田愛子



晴明会館

「暮らして花鳥風月」前期展
期間…6月1日(木)～12月13日(水)

※晴明会館お問い合わせ ☎092(661)1535